

ドルチェ・クラシック・チャンネルにて

加藤元章、清水理恵のソロ、デュオ、室内楽などを配信しています！

インターネットで「ドルチェ・クラシックチャンネル」を検索。会員登録(無料)をすると様々なレコーディングを購入できます。(https://doce-classic-ch.com/)

加藤元章

◆ プロジェクト：“The Solos”

第1弾は「ドビュッシーから武満へ」と題し、20世紀の主要なソロ作品を網羅した貴重な作品集です。

◆ プロジェクト：“The Ultimate Etudes”

難度の高いエチュードを余すところなく全収録するという、ゴージャスなプロジェクトです！すでにカルク=エーレルト、ロレンツォ、フェルステナウなどが配信されています。

清水理恵

◆ 清水研作「日本の歌・世界の歌」vol.1

さくら、荒城の月、ロンドンデリーなど、長く愛され続けた「日本の歌・世界の歌」を作曲家・清水研作がメロディーの持つ普遍的な美しさを、時にはモダンな響きに包みさらなる味わいを加えることによって、幻想の世界を表現。楽譜はドルチェ楽器、村松楽器、新潟ヤマハで販売中。伴奏のみのマイナスイン音源も配信されています。

加藤元章&清水理恵によるクーラウ・プロジェクト

◆ クーラウ・プロジェクト

フルートのための室内楽作品を数多く残したクーラウ。その作品を網羅するという壮大な企画です！現在は全24曲あるデュオ作品全曲のレコーディングが進行中。すでに作品10、作品39、作品80が配信されています。

ヴェリタス・ミュージック・チャンネルにて

加藤元章、清水理恵による「邦人作品の歩み」の動画

清水研作のオーケストラや室内楽作品の動画を無料配信しています！

インターネットで「ヴェリタス・ミュージック」を検索。

http://veritas-music.com/ の画面から Veritas Music Channel にアクセスすると様々な動画を無料で視聴できます。

Flute Duo Concert

加藤元章 & 清水理恵 フルート・デュオコンサート
ピアノ：野間春美

<Program>

◆クーラウ：トリオ ト長調 作品119

D.F.R. Kuhlau: Trio in G major, Op.119 (清水、加藤、野間)

◆バッハ：無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ 第1番 ト短調 BWV1001

J.S. Bach: Sonata for Violin Solo No.1 in g minor, BWV1001 (加藤)

◆シューベルト：「しぼんだ花」による序奏と変奏 作品160

F.P. Schubert: Introduction and Variations on “Trockene Blumen”, D.802 (清水、野間)

2021.2.11(Thu) 第1部 2:00pm 開演

会場：新潟市民芸術文化会館 スタジオA

主催：ヴェリタス・ミュージック

協力：株式会社ドルチェ楽器 (パウエル・フルート・ジャパン)

村松楽器販売株式会社

◆F. クーラウ：トリオ ト長調 作品 119

フリードリヒ・クーラウ(1786-1832)は、ドイツに生まれ、ピアニスト、作曲家として活躍、後にデンマークに移住した。ベートーヴェンとの親交が深かったと言われる。全作品の中でフルートのための作品が占める割合が高く、フルーティストにとって「クーラウ」という名は馴染みの深い名前だが、作品の演奏難易度は高い。このトリオ・作品 119 は、フルート 2 本とピアノがそれぞれの存在感をしっかりと主張し合いながら、厳格で端正なソナタ形式の中で対話し融合していく傑作。

◆J.S. バッハ：無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ 第 1 番 ト短調 BWV1001

この曲は、バッハ(1685-1750)がレオポルド侯のもと、ケーテンの宮廷楽長をつとめていた 1720 年頃に作曲された 6 曲のヴァイオリン・ソロのうちの第 1 番。この 6 曲は、3 曲の「ソナタ」と 3 曲の「パルティータ」から成り立っており、ソナタ 3 曲は「教会ソナタ」と呼ばれる、舞曲(当時は世俗的なものとされた)を使わない形式で書かれた 4 つの楽章からなる曲。3 曲とも第 2 楽章が大がかりなフーガになっている構成が特徴の名曲。

◆F. シューベルト：「しぼんだ花」による序奏と変奏曲 作品 160

フランツ・シューベルト(1797-1828)の晩年(といっても 28 歳)の作品であるこの曲は、当時のフルートの名手とされるフェルディナンド・ボグナーの依頼により書き上げられた作品。シューベルトの他の変奏曲でも多く見られる事だが、自身の歌曲からテーマを引用している。この曲では、歌曲「美しき水車小屋の娘」の中から第 18 曲の「しぼんだ花」がテーマとして使われ、優しく、時に激しく、自由に変化しながら 7 つの変奏が展開していく。ピアノは、室内乐的に大きな役割を担うのが特徴の名曲。

(加藤元章)

<Profile>

加藤元章 (Motoaki Kato) フルード

桐朋学園大学で森正氏に師事。1978 年にパリ国立高等音楽院に入学、ジャン＝ピエール・ランパル、ミシェル・デボストの両氏に師事し、82 年プルミエ・プリ(一等賞)で卒業。ブダペスト、プラハの春国際コンクール入賞、アンコーナ、マリア・カナルス、ランパル国際コンクールで 2 位、マディラ国際フルードコンクール優勝。87 年サントリーホール、92 年東京芸術劇場でのリサイタル、97 年サントリーホールでのコンチェルト・リサイタルのライブ CD の他、2 つの CD シリーズ、“Motoaki KATO プレミアムセレクション”と“アート オブ エクササイズ”16 タイトルをリリース、その中から現代作品集 I 「夜は白と黒で」は、平成 6 年度の文化庁『芸術作品賞』を受賞。2001 年にはムジーク・フェライン(ウイーン楽友協会)にて日本人フルーティストとして初めてリサイタルを行う。2005 年、ユン・イサン(尹伊桑)のフルード協奏曲を、韓国初演。2019 年からは

配信アルバムの制作を開始。フルーティスト清水理恵氏との共演で、フリードリヒ・クーラウのフルード 2 重奏曲 24 曲の完全収録を目指す「クーラウ・プロジェクト」、難易度が高い練習曲を収録する「ジ・アルティメット・エチュード」、独奏曲を時代別に収録する「ザ・ソロ」の 3 つのシリーズの録音が同時進行中。現在 7 タイトル(CD9 枚相当)を配信している。

清水理恵 (Rie Shimizu) フルード

桐朋学園大学卒業後渡米。ボストン大学大学院にて当時のボストン交響楽団首席フルード奏者ドリオ・ドワイヤーに師事。同大学院修士課程修了。在米中よりソリスト・室内楽奏者として幅広く活動する。帰国後「現代室内楽コンクール競楽 II」第 3 位及フォルテ・ミュージック賞受賞。フランス、アメリカ、中国の音楽祭やコンヴェンション、作曲家会議、大学等に招かれ、新曲初演やコンサート、マスタークラスなどを行う。2012~18 年リサイタル・シリーズ「バッハ：無伴奏チェロ組曲に魅せられて」全 6 回を企画開催。2018 年秋よりリサイタル・シリーズ第 2 弾「バッハ：ヴァイオリン・ソナタ&パルティータとともに」を始動した。ドルチェ・クラシックチャンネルにて、加藤元章氏とクーラウのデュオ、清水研作「日本の歌・世界の歌」など様々な配信を行う。CD「Three Water Colors」、清水研作作品集「海」、「日本の歌・世界の歌」。ヴェリタス・ミュージックアカデミー主宰。桐朋芸術短期大学及び新潟大学講師。中国綏化音楽院客員教授。http://shimizu-rie.com/

野間春美 (Harumi Noma) ピアノ

桐朋学園大学音楽学部音楽科ピアノ専攻を経て同大学研究科を修了。第 5 回友愛ドイツ歌曲コンクールにおいて優秀伴奏者賞受賞。第 7 回日本室内楽コンクール入賞。在学中より室内楽をはじめとするアンサンブルピアニストとして活動を始め NHK 交響楽団や東京交響楽団のメンバーと数々の演奏会で共演。NHK-FM 「土曜リサイタル」「FM リサイタル」BS-TBS 「日本名曲アルバム」に出演するほか学校音楽教材などのレコーディングに多数携わる。現在、桐朋学園大学嘱託演奏員、新国立オペラ研修所ピアニストを務めている。

清水研作 (Kenaku Shimizu) 作曲

新潟市生まれ。ボストンのハーバード大学大学院博士課程に特待生として招かれ博士号取得、作曲と音楽理論の講義を持つ。1990 年ヴェニエニアフスキ国際作曲コンクールにて満場一致の優勝。96 年フランス国立音響・音楽の探究と調整 mp 研究所(IRCAM)に招聘されコンピュータ音楽の研鑽を積む。国内各地をはじめ、サントリーホール 10 周年記念、テレビ朝日開局 55 周年記念、日本フルード協会主催フルードコンヴェンション、ドイツのルール国際ピアノ・フェスティバル、プレーメン音楽祭、イギリスのライデール音楽祭、オーストラリアのキャスルメイン音楽祭、韓国の統営、フランスのトゥールーズ等、世界各地にて様々な作品が演奏されている。2012 年ドイツで初演された南西ドイツ・フィルハーモニー交響楽団委嘱による「レクイエム・フォー・フクシマ」、2019 年ベルリン・フィルハーモニー室内楽ホールにて初演された、弦楽オーケストラのための「却来」等いずれも好評を博している。コンピュータを用いた新たな表現方法も追求している。新潟大学教授。https://kensakushimizu.com

◆ ***Friedrich Kuhlau: Trio in G major, Op.119***

Friedrich Kuhlau (1786-1832) was born in Germany, worked successfully as a pianist and composer, and later moved to Denmark. It is said that he had a close friendship with Beethoven. The name “Kuhlau” is very popular among flutists since he wrote many works for flute. Many of the pieces are difficult to play for beginners. This trio Op.119 is a masterpiece, in which two flutes and a piano interact and integrate in the strict sonata form, while firmly asserting their presence.

◆ ***J.S. Bach: Sonata for Violin Solo No.1 in g minor, BWV1001***

This composition is the first of six violin solos composed around 1720 when Bach (1685-1750) was the court chapel master of Köthen under Leopold. These six pieces consist of three "sonatas" and three "partitas", and the three sonatas are called "church sonatas". A format does not include dance movement, because the dance music was considered secular at the time. These sonatas consist of four movements. All are masterpieces and every second movement has a large-scale fugue.

◆ ***Franz Schubert: Introduction and Variations on “Trockne Blumen”, D.802***

This piece, a work of Franz Schubert (1797-1828), was written in his later years (28 years old) at the request of Ferdinand Bogner, a virtuoso flutist at the time. As is often the case with Schubert's other variations, he quotes the theme from his own songs. In this piece, the 18th song “Withered Flowers” from the song cycle “The Fair Maid of the Mill” is used as the theme. Each seven variations keep developping, while changing gently, sometimes violently, and freely. It is the most outstanding work, in which piano plays a major role and contributes substantially to this great work.

(Motoaki Kato)